

# たけのこ

2009 JUNE 6 / 第10号



医療法人 久盛会  
秋田緑ヶ丘病院

〒011-0911 秋田市雁島字堀川 84 番地 TEL (018) 845-2161 FAX (018) 846-0942  
ホームページ <http://www.kyusei.or.jp/>



### 理念

友情を固め、「生きる喜び」と「希望」を育み、「安全・安心・信頼の医療」を実現します

### 指針

1. 医療の安全と質の向上に努め、患者さんに信頼される医療を提供します
2. 医療人の育成を図り、医の倫理の高揚に努めます
3. 患者さんの人権と個人の尊厳を守り、親切、丁寧な医療サービスに努めます
4. 社会の変化・医療の進歩に対応できるよう自ら研鑽に努めます
5. 医療を通して、地域社会の一員として貢献できるように努めます



太平保養所の竹林



日本精神神経学会  
について  
医局 鈴木 稔

「風薫る五月」と言いますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

ことしのゴールデンウィークは「豚インフルエンザ」報道などもありましたが、珍しいくらい連日の好天に恵まれ、また高速道路のETC割引なども重なり、全国各地で大変にぎわったようです。

急に暑くなりまして、秋田では7月下旬〜8月上旬並みの陽気の日も続いており、体調を崩されないようご留意いただければと思います。

話は少しそれますが、精神科領域における最大の学会に、「日本精神神経学会」という名称の学会があります。やはり例年5月に学術大会が開催され、全国から多数の精神科医師が出席しています。

医療は日々進歩しており、つぎつぎと新しい治療薬も開発され、市場に出てきております。また近年、「精神科専門医制度」が発足しました。

当院には、多数の専門医および指導医の資格を有する医師が在籍しております。

学会参加は、専門医および指導医の勉強の場として、大変重要な意味を持つようになってきております。そして、われわれ精神科医は、さらなる勉強と研鑽を求められる時代となっておりまして。当院からも毎年交代で、多くのドクターが学会に出席することになると思われます。

わたくしも、今回5月の同学会に出席させていただきます。予定でしたが、豚インフルエンザの影響で8月に延期となりました。最新の精神医学について学んで来て、今後の診療にぜひ生かしていきたいと思っております。

一部の日が外来診療日と重なってしまいうため、皆様には大変ご迷惑をおかけいたしますが、何卒趣旨をご理解いただけますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

# 運動祭



作業療法士  
石川 麻裕

晴天の下、今年度の運動祭が5月28日に開催されました。午前中は、競技が行われ、

玉入れではなかなか玉が籠に入らずに苦戦していたり、ボール送りゲームではチーム内で声を掛け合ってチームワーク良く取り組む姿が見られました。患者さんの笑顔と歓声、職員からの声援がグラウンドゴルフ場に響き渡り、大いに盛り上がりを見せました。また、今年度は職員が競技に参加する「職員リレー」が企画されました。障害物に四苦八苦する姿に、患者さんや職員から声援と大きな笑い声が送られました。

午後からは模擬店が開催され、お祭りらしい飾り付けがされた模擬店では焼鳥や綿あめなどが振舞われ、賑やかな雰囲気の中で食べる皆さんの姿は「満足」といった表情そのものでした。「楽しかった」との声が多数聞かれ、患者さんにとってとても有意義な一日となったようでした。



## 新しい職員駐車場が完成しました!

秋田緑ヶ丘病院では、職員用の駐車場を当法人所有の自衛隊射撃場跡地に工事を行い、5月末に完成しました。収容台数は135台となっています。病院と隣接する駐車場であるため、利便性のみならず安全と安心をも両立できるようになりました。



## リレーこらむ

### ソウルオリンピック観戦を懐かしむ



訪問看護ステーション  
菅原 栄子

「たけのこ」はファイナルしており時々時間を見つけてはパラパラめくって楽しんでる。一昨年の「リレーコラム」には

早川先生の「北京五輪に向けて」が掲載されていた。思えば私にもオリンピックの思い出がある。

1988、9・17-1988、10・22に開催されたソウルオリンピックが懐かしく思い出された。ロサンゼルスやモスクワの時のようにボイコットもなく、12年振りにアメリカとソビエトが揃ったことへの関心が随分集まった。私は、むしろ単純にアジア地域における二度目の夏季オリンピックということで観戦してみたいと強く思った。観戦種目は、ツアーに組み込まれていた「サッカー」「水泳」「レスリング」。サッカーは別として、水泳・レスリングでは金メダル・銀メダルを獲得した。特にレスリングでは秋田県出身者の活躍がめざましく、秋商↓日体大の佐藤満はフリースタイル52kg級で見事に金メダルを、秋商↓早稲田大学の大田章はフリースタイル90kg級で銀メダルを獲得した。私は地元新聞のインタビューを受け、内容は「わざわざレスリングを応援に秋田からきたのか?」というものの。ツアーバスの中で秋田県出身者の情報を仕入れたほどの音痴だったが、答えは「当然です。秋田県人は情が深く、ツアーに組んでどこにでも応援に行きますよ。」と答えたように記憶している。このコメントが翌日の新聞に掲載されたかは定かではない。

そして、私にとって最も心に残った試合は、競泳男子100メートル背泳ぎの鈴木大地選手との金メダル獲得の瞬間に立ち会えた事である。(55秒05の日本新記録)。鈴木選手は、水中に潜ったまま仰向けのドルフィンキックだけで進むバサロスタートの第一人者。スピードが出るが体力を消耗するのでこれまでは25メートルとしか出ていた。決勝では30メートル潜っていた。ターン時トップのバークオフに体半分遅れていた。しかし後半追いつきタッチの差で優勝した。(0.13秒差)。これは日本に待望の金メダル第一号もたらされた瞬間でもある。競技場では高らかに奏でられる日本の国家「君が代」の演奏にあわせて「日の丸」の国旗が緩やかに揚げられていく。私たちも誇らしげに「君が代」を歌ったのを今でも鮮明に思い出される。水泳にしろ、レスリングにしろメダルを共有したような臨場感はやはりその場に行かなければ味わえないものだと今でも感じている。当時の金浦空港は、機関銃を構えた厳めしい兵士たちが大勢監視に当たっていて物々しい雰囲気であった。今では秋田から定期便が就航し久しい。時代の流れを感じている。

# 薬局だより



薬剤師 高橋 至

## ピリンはピリンじゃない

ウソ・ホントというよりちょっとまぎらわしいお話です。ピリン系の風邪薬は、アレルギーのために使えない方がおり、風邪薬がピリン系、非ピリン系と分類されている事はご存じの方も多と思います。一方風邪の時に熱さましや頭痛の際の鎮痛剤あるいは、血栓の予防などの目的で使われる薬にアスピリン(代表的なお薬として、バファリン)があります。このアスピリンがピリン系か非ピリン系かはよく間違われる所です。

アスピリンは「ピリン」という語が入っている為、ピリン系の薬剤と思われるがちですが、化学的にも薬理学的にもまったく異なった医薬品です。アスピリンは別名アセチルサリチル酸で、アスピリンという名前はアセチルのAとサリチル酸の別名であった SpiraeUlmaria という植物に由来しているそうです。

一方のピリン系について簡単に触れておきますと、ピリン系のお薬の代表的なものとして、「スルピリン」「アンチピリン」等があげられますが、過敏症や血液障害等の副作用が問題となり、現在では、ほんの一部の市販薬に配合されているだけです。

# 心療内科



心理士 菊地 敏行

## ストレス社会

ここ数年、「ストレス」という言葉が子供から大人まで年齢、性別を問わず普段の会話の中に浸透してきた感じを受けます。言葉は違いますが「疲れた」「やる気がしない」「食欲が無い」なども「ストレス」から来る言葉の一つと思われるます。

生活の中で感じる「ストレス」は立場や環境の違いはありますが、千差万別、数え切れないほどありまして、その深刻さも人それぞれに違いがあります。「何でそんなことで悩んでいるの?」と思えることでも、「ストレス」からくる悩みを抱える本人にとっては一大事です。日々悩みから開放されることは無く、何をやっても楽しく感じられなくなり、食事もノドを通らず、グッスリ眠ることも少なくなりまして。あるいは、夢にまで出てきて、深夜に飛び起きる、なんてこともあります。そんな毎日が続いて行くと、「ストレス」が強化され、また新たな「ストレス」を生み、他人の意見や注意も素直に聞かえず、悲観的に感じてしまうこともしばしばです。小さな「ストレス」も対応を間違ってしまうと大きな問題に成長してしまいます。

「ストレス」に対する方法のひとつとして、日頃から身近な相談者を見つけ、遠慮無く話せる場を持つておくこと、身近な人にこそ話せないという方は、気兼ねなく専門機関を利用してください。

## たけのこ会開催

職員行事の1つである「たけのこ会」が太平保養所で開催されました。初日はあいにくの雨でしたが、2日目は天候も回復しワラビ採りも行いました。一般的には食べることの出来ない「たけのこの刺身」を筆頭に数々のたけのこ料理を堪能しました。



## ギャラリー

こちらの作品は、入院患者さんが作業療法プログラムで製作した作品の一例です。

# 部署紹介



## 西4病棟のご紹介

西4病棟 工藤 正志

西4病棟は男女混合の精神療養病棟です。慢性期の患者さんに対してはADLの維持改善とQOLの向上を目指して積極的に精神科リハビリを展開し、社会復帰への意欲を高めることを目標としています。また、急性期治療病棟のバックアップ病棟として、ニューロングステイにならないよう早期の退院・社会復帰に向けた援助を展開しています。この春からは固定チームナーシングを導入しました。受持ち制を強化し、今までよりさらに個別性の高い継続看護を目指し、スタッフ一同取り組んでいます。



